

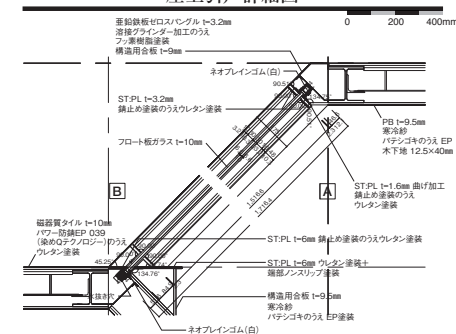
市松模様の床とヴォイドが交互に逆転しながら積層していく。また構造体のボックス梁も、交互に底と梁になりながら、編み込まれている。

試論

ディテールや施工の困難をいかに乗り越えるか

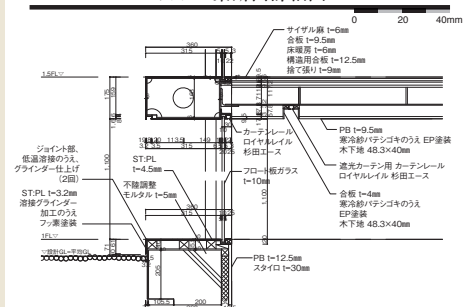
「概念」をわかりやすく具現化するためには、雨じまいや設備の納め方などの課題が山積していた。

屋上引戸詳細図



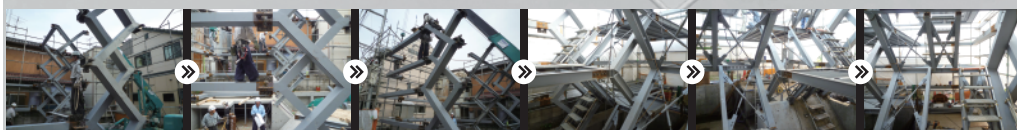
屋根も床スラブと同じ形状で、開口部は斜めになっている。そこに引戸を納めるディテール。

ボックス梁断面詳細図



「概念」の形態をじゃましないように、鉄板のボックス梁のなかで配管、配線をしている。

難しい形態、構造、設備のため、施工も容易ではなかった。とくに特注したボックス梁を納める精度が求められ、橋などの建設にかかわる工務店が担うことになった。



ボックス梁、階段、デッキスラブの建て方

写真提供：横浜建築設計事務所